

1年

巻を目指して

写真でつづる 震災から1年



被災状況 湊中付近



被災状況 雄勝小付近



がれき撤去をする災害ボランティアの皆さん



まちなかスマイルプロジェクト(泥排除まちなか活動)始動式



自衛隊救援活動

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とその後に襲来した巨大大津波により尊い市民の命を失い、今もなお多くの市民が行方不明となっています。市民の平和な暮らしはもとより、生活を支える都市と産業の基盤の多くを失いました。しかし、震災後、国・県をはじめ、全国の企業や自治体、ボランティアの方々などによる多くの、そして心温まる支援により、改めて「生きる力」となるコミュニティの大切さを学び、市民が丸となった復旧・再生・発展への力強い第一歩を踏み出しました。

主な被災状況

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震発生。

震源は、牡鹿半島東南130km、深さ24km。国内観測史上最大となるマグニチュード9.0。震度6強の激しい揺れと、その後に沿岸全域に襲来した巨大大津波は、本来市民を守るべき防潮堤を破壊し、多くの人命を奪い、私たちの住まいや働く場、道路や港湾、漁港など多くの財産が失われました。

津波の高さは、牡鹿地区観測点で最大8.6m以上を観測、死者3,019人、行方不明者557人(平成24年1月末)にのぼる未曾有の大災害となり、本市に深い傷跡と悲しみの記憶を残すこととなりました。

この津波により、平野部の約30%、中心市街地を含む沿岸域の約73km²が浸水し、被災住家は、全住家数の約7割の53,742棟、うち約4割の

あれから

最大の被災都市から 世界の復興モデル都市 **石**



自衛隊の皆さんとお別れ会 水明保育所の子も達



仮設住宅



おがつ店こ屋街



SL復興号



仮設住宅団地集会所での「はつらつ教室」



北上 復興市絆感謝祭



おしかのれん街

22、357棟が全壊（平成23年10月末）となりました。

沿岸域においては、工場や事業所をはじめ、学校・病院・総合支所等の公共施設が壊滅的な被害となり、本市全域でライフラインが停止し、都市としての機能が失われました。

震災後の最大避難者数は約50,000人、避難箇所は250カ所で、在宅避難者を含めた最大食料配布人数は約87,000人（平成23年3月17日時点）と想定の域を大きく上回る事態となりました。

地震に伴う地盤沈下も深刻で、牡鹿地区鮎川の120cm沈下をはじめ、市内の広範囲で地盤沈下や液状化が発生しています。

その後も大きな余震は際限なく発生し、4月7日にはマグニチュード7.1の最大余震により震度6弱を記録するなど、甚大な被害がさらに拡大することとなりました。